

平成29年度第6回天童市教育委員会について（報告）

日 時	平成29年9月25日（月） 午前10時～11時
場 所	教育委員会 第一会議室
出席委員	相澤一彦教育長、井上正信委員、大貫紀代子委員、本田孝之委員 阿部真由美委員
欠席委員	なし
出席者	佐藤雅教育次長兼教育総務課長、江川久美子学校教育課長、 武田文敏生涯学習課長、萩生田伸悟学校給食センター所長 事務局（教育総務課職員）
議 事	議第17号 平成29年度教育委員会優秀児童生徒の褒賞「宮城 浩蔵賞」について

<教育長あいさつ>

9月を迎え、子どもたちは落ち着いているように感じますが、この現状をどう見るかも大事であると考えています。さわり（要点、ポイント）を2つお話しします。1つには、子どもたちは担任を気にして、目立たないように、自分の個性を発揮することなく大きな目立ち方をしないように、ひっそり過ごしているのではないかと感じています。2つには、教職員がひとり一人の個性や子ども達に配慮するあまり、もっと頑張れなど強い要求をしないようになった。お前ならできる、といった励ましがしにくくなっているのだろうと考えています。

次に、新教育委員会制度が昨年度からスタートして、3点お話しします。1点目は、教育委員会の役割について、首長と教育委員会とは対等であるということです。教育委員会は民意を反映していく独立した機関であると肝に銘じることが大事なのだということです。2点目は、そのことを教育行政に反映させるために、「総合教育会議」が設置されているということです。3点目は、教育委員会会議が充実したものにならないといけないと考えています。よって、出来るだけ私のあいさつをありきたりなものにせず、ミニ研修の場と考え、情報提供も含めたものにしていく考えであります。

次に、学力向上についての話です。学力の向上は学校の重大な使命です。「学力」の捉え方が変わってきていますが、新学習指導要領には、①知識及び技能が習得されるようにすること。②思考力、判断力、表現力等を育成すること。③学びに向かう力、人間性を涵養すること。の3つが明記されています。

昔の学力観からすると「知識ばかりあってもダメなんだ」「社会に出たら知識ばかりではだめなんだ」と、学力向上の一面を捉えていたのではないかと思います。前記①～③からすると、「学力」を高めることは「生きる力」に繋がるということではないのか。それが人間性を涵養することなのではないかということをお大事にしなければいけないと考えています。

是非、本市の学校経営の中心を「学力」を高める、生きる力を育てるものに。

そして授業は教師の中心的な仕事なのだとすることをもう一度取り組んでいき、教科の本質をついた、学びに向かうものにしていきたい。

むすびに、任期満了を迎える阿部真由美委員におかれましては、これまで多大なご指導をいただきありがとうございました。私たち教育委員会を明るく、前向きな姿勢で、気付かない視点をたくさんご提示していただいたことに感謝申し上げます。

< 議 事 >

議第17号 平成29年度教育委員会優良児童生徒の褒賞「宮城浩蔵賞」について

<可決する>

審議経過

本田委員：各中学校からの内申によるものとのことですが、学校で選考する際の決め方を指導していますか。それとも、選考方法は学校に任せていますか。

学校教育課：優秀児童生徒の褒賞要綱を学校に示し、教育委員会としての決め方の指導は特にありません。各学校がこれまで15年間行ってきた決め方を考慮しながら選考しているようです。

教育長：私が学校長をしていた頃、1度指導があり、これまで生徒会長ばかりが選考されていたため、この賞の趣旨として成績が優秀であることを最優先としてくださいとのことでした。

大貫委員：必ず生徒会長としないことが、子どもたちにとって良いと思う。頑張れば認めてもらえるチャンスがあるのだから。

この賞が15回目とのことですが、受賞した子が天童に帰ってきて活躍している方はいらっしゃいますか。

学校教育課：追跡調査しておりませんが、記憶では市職員として活躍している方が1名おります。

<全会一致>

教育長：議事は以上です。委員の皆様から何かありませんか。無いようですので議事を終了します。

< 報 告 >

なし

教育長：他には無いようですので、第6回教育委員会会議を終了します。